樗牛を研究することは明治期の、いや、もっと広くは日本近代文化の研究をすることと同義である。

# 高山樗牛
# 研究資料集成

全九巻　花澤　哲文 編・解説

クレス出版

# 刊行にあたって

國學院大學兼任講師
花澤哲文

高山樗牛（一八七一―一九〇二）は忘れられた思想家といっても過言ではないだろう。研究の場面では時折、言及されることもあるが、少なくとも、一般の知名度はなきに等しい。だが、かつては帝国大学の先輩・夏目漱石をして「何の高山の林公抔」と嫉妬させたほど、一世を覆う知のカリスマとしてもてはやされた時代があったのである。

樗牛は抒情的な歴史小説『瀧口入道』を書き、小説家の力量を示すとともに、坪内逍遙が大々的に打ち出した「新史劇」を批評し、論争を展開する。その応酬は日本美術院の歴史画熱の方面へと飛び火し、さらに論争は早稲田派との間で白熱した。また、師の井上哲次郎と日本主義を主唱するも、海老名弾正らキリスト教系の反対論が巻き起こる。翻っては『平相国』、『平家雑感』を物し、平清盛の優れた主我の一徹を口を極めて称賛して見せた。そして、『美的生活を論ず』では個人主義の極致を表出。本能の満足こそが人間至上の幸福であるべき所以を説いた。病勢の進んだ樗牛は、ようやく天才の存在を求め始め、『天才の出現』に夢を見、百万の凡人より一人のナポレオンを、一千万の凡人より一人の日蓮を、一億の凡人より一人の釈迦を希求した。ついに病み衰えていくなかで、『日蓮上人とは如何なる人ぞ』と日蓮の偉大に最後の渇仰を捧げた。

如上のような多様な活躍を見せた樗牛であったが、終わりは早く、わずか三一歳での遠行であった。その疾風怒濤のごとき人生を評して、保田與重郎は「樗牛の文学者としての全生涯は十年余であつたが、その短い期間に於て、文明開化期の文人の思想的生涯を殆んど経験したやうな人であつた」と述べた。樗牛を研究することは明治期の、いや、もっと広くは日本近代文化の研究をすることと同義であると思われる。短い生涯のなかで変遷した思想と立場、そして慢性的な肺患との闘いは、ある意味で日本文化を濃縮したかのような存在感を樗牛に与えている。

本『高山樗牛研究資料集成』（全九巻）は、そんな樗牛を着実に解明してきた歴史を有した集成である。雨垂れが石を穿つように、細々と、しかし確実に樗牛を読み解いてきた各人の研究成果を、できるだけ幅広く網羅したつもりである。本集成がこれからの高山樗牛研究に、ひいては明治文化史の研究に進展をもたらし、新生面を開く一助となることを願っている。

## 第二巻　『哲人　高山樗牛』



### 第五節　晩年の樗牛

ほんとうの肺病にかゝつてからの樗牛といふものは、其の思想に於いてのみでなく、實生活に於いてもすつかり變化して行つた。否變化せざるを得ないのであつたらう。是迄抱いた抱負も理想も次第に彼から遠ざかつて行つて、殘るものは只、彼のみである。病と戰はねばならぬ彼自身のみである。爾後の樗牛は全く其の病氣と戰はんが爲めにのみ生きて居た。

彼の學友は皆遠き將來の目的に向つて勇往邁進する。或者は既に彼を後にして歐洲に留學する、或者は博士論文の準備に餘念が無い。而して彼は日々に衰え行く自分の肉體に苛まれて行くのみである。斯かる境遇にあつては、學の爲めの學、彼の所謂口耳の學を呪ひて藝術に赴く心理狀態は、實に自然の經路でなければならぬ。

さて彼は日々自己の病氣と戰ひつゝも、筆を執ることは止めなかつた。否斯かる

## 第四巻　『文豪　高山樗牛』

### 明治四年（一歳）

高山樗牛は、一月十日、羽前鶴岡高畑町に生れた。

姓は齋藤、名は林次郎。

齋藤家は、藩主酒井家の家臣であつた。

父齋藤親信は、幼名は直次郎といひ、同じく酒井家の家臣高山から、齋藤家に入つて、同家を嗣いだ人である、母齋藤芳子は卽ち齋藤家の家女であつた。

父　親信　天保十四年二月十七日生。

母　芳子　弘化四年十一月廿六日生。

齋藤家の界隈を、今でも新山小路、または龍覺寺小路といふ人がある。但し、土地臺帳には、新山東小路と記されてゐる。卽ち、この邊一帶を、舊稱新山東小路といつた。また、父親信は、書簡などに、殆ど例外なく、新山東小路と書き記した。

樗牛誕生の家屋は、現在の鶴岡市高畑町乙二番地で、殆ど往時のまゝ存してゐる。所有者弟齋藤親平。

樗牛は、齋藤家の二男として生れた。

兄親廣、樗牛に長たること六年。姉元子、樗牛に長たること四年。それから樗牛。弟良太、樗牛に後るゝこと二年。妹直子、樗牛に後るゝこと四年。弟信策、文學士、樗牛全集編纂者の一人、野の人と號した、樗牛に後るゝこと八年。妹直ゐ、高山喜三郎夫人、樗牛に後るゝこと十年。弟謙輔、樗牛に後るゝこと十二年。弟親平、去昌七、寿十二後るゝこと二十四年。寿十の弟妹は、以上の四人、九人であつた

樗牛は、上述の通り、兄一人姉一人の後に、男子誕生といふので、異常な悅びを以つて、一家に迎えられた。

樗牛は、父親信の懷に抱かれて、溫海溫泉に入湯してた。

今は羽越の鐵路が開けて、鶴岡から同溫泉まで、一時間と要しない。然し、當時は、草鞋がけで、未明から黃昏かけて、實に十里の修途を踏み破らなければならなかつた。途中には、斷崖絕壁、日本海の怒濤を脚下に聞く笠取峠といふ難所もある。

二十九歲の父に抱かれた一歲の樗牛は、後年、彼の賞美した日本海の落日を浴びながら、山懷の淋しい溫泉場に着いたのである。

彼が如何に父母によつて愛されたか、この一事に據つてもよく解る。

尙、樗牛は、これより後、或は養母高山岩江に連れられて、或は彼自身で、この溫海溫泉を訪れてゐる。日本海及び日本海の落日が、幼少年時代すでに一つの彼の印象となつたのではなかつたか。

樗牛の生れた明治四年の齋藤家の家族は、祖父親良幼名林八郎四十五歲、祖母竹子四十三歲、父親信二十九歲、母芳子二十五歲、兄親廣七歲、姉元子五歲、樗牛一歲、叔父資順十一歲、叔父重孝二歲の十人であつた。

尙、母芳子の兄弟は、芳子を長女として、長男武藏、二男資順、三男修治、四男重孝、二女やそ江の六人であつて、武藏は四歲で死去、資順修治は夫々太田家五十嵐家を嗣ぎ、修治は一時長澤姓を名乘つた。

父親言ふ「明治八年六月十三日、御置申付候事、酉丑除（注一）」

## 高山樗牛研究資料集成　全九巻構成

### 第一巻　『樗牛兄弟』・『人文』

太田資順編『樗牛兄弟』有朋館（大正4年）
『人文』樗牛会（大正5年1月～大正8年3月）

### 第二巻　西宮藤朝・赤木桁平

西宮藤朝『哲人　高山樗牛』泰山房（大正6年）
赤木桁平『人及び思想家としての高山樗牛』新潮社（大正7年）

### 第三巻　三井甲之・高須芳次郎・浅野晃

三井甲之『樗牛全集から』第一高等学校昭信会（昭和10年）
高須芳次郎『人と文学　高山樗牛』偕成社（昭和18年）
浅野　晃『樗牛と天心』潮文閣（昭和18年）

### 第四巻　工藤恒治・成田正毅・後藤丹治

工藤恒治『文豪　高山樗牛』文豪高山樗牛刊行会（昭和16年）
成田正毅『高山樗牛瞑想の松』瞑想の松保存会（昭和17年）
後藤丹治『中世国文学研究』磯部甲陽堂（昭和18年）
後藤丹治『樗牛の歴史小説』「滝口入道再説」（昭和38年）

### 第五巻　『樗牛全集』・『人間高山樗牛』集ほか

第一次『樗牛全集』序言（明治37年～39年）
第二次『樗牛全集』緒言（大正3年～5年）
第三次『樗牛全集』序言（大正14年～昭和8年）
『文は人なり』姉崎正治「序言」「増訂改版序言」（明治44年、大正7年）
「高山樗牛」『近代文学研究叢書』第六巻（昭和32年）
土方定一「高山樗牛と支配する階級の浪漫主義、田岡嶺雲」、
「高山樗牛論」（昭和48年）
剣持武彦「高山樗牛」（昭和49年）
小野寺凡「人間高山樗牛」（昭和51年10月～昭和57年1月）

### 第六巻　秋山正香・長谷川義記

秋山正香『高山樗牛――その生涯と思想』積文館（昭和32年）
長谷川義記『樗牛――青春夢残』暁書房（昭和57年）

### 第七巻　随想・研究・論文集

『明星』「明治36年2月）
與謝野鐵幹「故高山博士追悼会」、畔柳都太郎「故高山文学博士」、桑木厳翼「文学者としての博士」
『中央公論』「高山樗牛」（明治40年5月）
大町桂月「高山君に就て」、田山花袋「樗牛に就て」、佐々醒雪「故高山樗牛君」、沼波瓊音「高山博士の言行」、長谷川天渓「高山樗牛」、徳田秋江「故高山樗牛に対する吾が初恋」、戸川秋骨「高山樗牛氏」
『中央公論』「高山樗牛」（明治40年6月）
「故高山林次郎君の天才に就て」、齋藤信策「亡兄高山樗牛」
『古典研究』「明治文学研究―高山樗牛―」（昭和17年3月）
土井重義「高山樗牛小引」、中村武羅夫「高山樗牛と創作」、近松秋江「理想主義の評論家高山樗牛」、水守亀之助「創作家としての樗牛」、中村星湖「随想明治文学―樋口一葉のこと―」、沖野岩三郎「高山樗牛のお伽噺」尊重論と歴史観」、塩田良平「勧懲の文学論―馬琴・樗牛・漱石―」、佐山済「高山樗牛と女性文学」、篠田太郎「樗牛を語る―思想の変遷を跡つけて―」、田中保隆「樗牛的浪漫主義の開展」、大谷鮮子「樗牛思想の一断面―日蓮の基督論を中心として―」
『真世界』（昭和26年11月）
小倉貫運「高山樗牛と龍華寺」、「高山樗牛より田中智学先生に宛てた手紙」、里見岸雄「樗牛の印象」、星野武男「樗牛と私」、齋藤実「高山樗牛論」、山田政吉「高山樗牛先生顕彰会発会とその事業の経過について」
高須芳次郎「高山樗牛氏を悼む」、姉崎正治「性格の人高山樗牛」、「高山樗牛と日蓮上人」桑木厳翼「文学者としての高山君」、長谷川天渓「高山樗牛」、本間久雄「高山樗牛論」、窪田空穂「龍華寺の樗牛の墓」、「高山樗牛と日蓮上人」（「序文」、「序言」、山川智応「高山樗牛の日蓮上人崇拝に就いて」、姉崎正治「性格の人　高山樗牛」、「信仰の人　高山樗牛」）安倍能成「高山樗牛と綱島梁川」、大町桂月「文豪　高山樗牛」、日夏耿之介「樗牛前半期の詩評―詩評家としての高山樗牛」、笹川臨風「帝国文学発刊の前後」、「樗牛集の首に」、土井晩翠「学生時代の高山樗牛」「井上準之助と高山樗牛」、篠田良平「高山樗牛」、「樗牛、鐵幹、子規、木村毅「高山樗牛」、林泉「少年時代の樗牛」、正宗白鳥「一葉と樗牛」、保田與重郎「高山樗牛論」、矢野峰人「高山樗牛」

### 第八巻　『滝口入道』・地縁集

姉崎嘲風「「瀧口入道」に就て」、玉園快應「瀧口横笛の話」、水口薇陽「脚本「瀧口入道を読みて」、姉崎嘲風「瀧口入道について」、塩田良平「解説」、塩谷贊「解説」、笹淵友一「瀧口入道」石丸久「高山樗牛　瀧口入道」、片岡良一「瀧口入道」と高山樗牛」、廣島一雄「滝口入道」覚書―平家物語との距離―」、「平塚と高山樗牛」、尾形六郎兵衛「明治の文豪　高山樗牛」、笹原儀三郎「二つの明治の青春」

### 第九巻　研究・論文集

橋浦兵一「高山樗牛」、岡崎義惠「高山樗牛論」、千葉京子「高山樗牛」、重松泰雄「樗牛の個人主義」「樗牛とニーチェ」、笹淵友一「高山樗牛とロマンティシズム」、室田泰一「高山樗牛の思想」、稲垣達郎「逍遙・樗牛の歴史画論争をめぐつて」、戸頃重基「樗牛と鑑三の対決」、立命館大学日本文学研究会近代部会編「高山樗牛著述目録―雑誌「太陽」所収―」、中井泰淳「樗牛私見」、福田準治の輔「樗牛の文芸批評の特質」、橋川文三「高山樗牛」、浦野哲「挫折した明山樗牛」、「鷗外と樗牛の美学論争」、和高伸二「美学者としての高山樗牛」、廣島一雄「高山樗牛と新体詩論」、「高山樗牛における「抒情的叙事詩」の背景」、「豹変について―高山樗牛の場合―」、「樗牛と啄木」、「高山樗牛における観念派と印象派」、「「春日芳草之夢」の構造」、姉崎嘲風「瀧口入道について」、「ひとつの挫折」、「樗牛の思考態度」、昆豊「啄木と高山樗牛」、「高山樗牛」、杉田弘子「高山樗牛とニーチェ」、長谷川泉「鷗外と樗牛」、伊藤敬一「高山樗牛の芸術思想」、岡野他家夫「高山樗牛らの「日本主義論」」、平田小六「高山樗牛についての一考察」、成瀬正勝「高山樗牛について」、河合靖峯「初期の高山樗牛」、吉田精一「高山樗牛」、渡辺和靖「明治思想史上の「浪漫主義」―明治二〇年代の高山樗牛」、「美学者としての高山樗牛」、前田愛「井上哲次郎と高山樗牛」、長谷川尚「高山樗牛」

## 高山樗牛研究資料集成　全九巻

花澤　哲文 編・解説

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第一巻 | 『樗牛兄弟』・『人文』 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-828-2 |
| 第二巻 | 西宮藤朝・赤木桁平 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-829-9 |
| 第三巻 | 三井甲之・高須芳次郎・浅野晃 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-830-5 |
| 第四巻 | 工藤恒治・成田正毅・後藤丹治 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-831-2 |
| 第五巻 | 『樗牛全集』・「人間高山樗牛」集ほか | 定価 9,000円（税別） | ISBN978-4-87733-832-9 |
| 第六巻 | 秋山正香・長谷川義記 | 定価11,000円（税別） | ISBN978-4-87733-833-6 |
| 第七巻 | 随想・研究・論文集 | 定価12,000円（税別） | ISBN978-4-87733-834-3 |
| 第八巻 | 『滝口入道』・地縁集 | 定価 8,000円（税別） | ISBN978-4-87733-835-0 |
| 第九巻 | 研究・論文集 | 定価12,000円（税別） | ISBN978-4-87733-836-7 |

A５判／上製函入り　平成26年９月末日刊行

揃定価92,000円（税別）　ISBN978-4-87733-837-4（セット）

## クレス出版好評既刊書

## 西田幾多郎研究資料集成　全９巻

小坂　国継 編・解説

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第１巻 | 高山岩男集Ⅰ | 定価 9,000円（税別） | ISBN978-4-87733-698-1 |
| 第２巻 | 高山岩男集Ⅱ、務台理作集 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-699-8 |
| 第３巻 | 瀧澤克己集 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-700-1 |
| 第４巻 | 高坂正顕集 | 定価12,000円（税別） | ISBN978-4-87733-701-8 |
| 第５巻 | 下村寅太郎集 | 定価 9,000円（税別） | ISBN978-4-87733-702-5 |
| 第６巻 | 柳田謙十郎集 | 定価10,000円（税別） | ISBN978-4-87733-703-2 |
| 第７巻 | 宮島　肇集 | 定価 9,000円（税別） | ISBN978-4-87733-704-9 |
| 第８巻 | 論文集（一） | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-705-6 |
| 第９巻 | 論文集（二） | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-706-3 |

揃定価95,000円（税別）　ISBN978-4-87733-707-0（セット）

## 子規研究資料集成　全七巻

越後　敬子 編・解説

| | | | |
|---|---|---|---|
| 〈回顧録編１〉 | 俳諧風聞記、友人子規 | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-629-5 |
| 〈回顧録編２〉 | 随攷子規居士、正岡子規 | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-630-1 |
| 〈研究編１〉 | 俳人子規、正岡子規 | 定価11,000円（税別） | ISBN978-4-87733-631-8 |
| 〈研究編２〉 | 正岡子規 | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-632-5 |
| 〈研究編３〉 | 正岡子規研究、正岡子規の新研究 | 定価17,000円（税別） | ISBN978-4-87733-633-2 |
| 〈作品評釈編１〉 | 春夏秋冬 子規俳句評釈、正岡子規 | 定価13,000円（税別） | ISBN978-4-87733-634-9 |
| 〈作品評釈編２〉 | 子規句集講義、子規名句評釈 | 定価15,000円（税別） | ISBN978-4-87733-635-6 |

揃定価95,000円（税別）　ISBN978-4-87733-636-3（セット）

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14-5　メローナ日本橋
☎(03)3808-1821　FAX(03)3808-1822　http://www.kress-jp.com/
株式会社クレス出版

●書店名